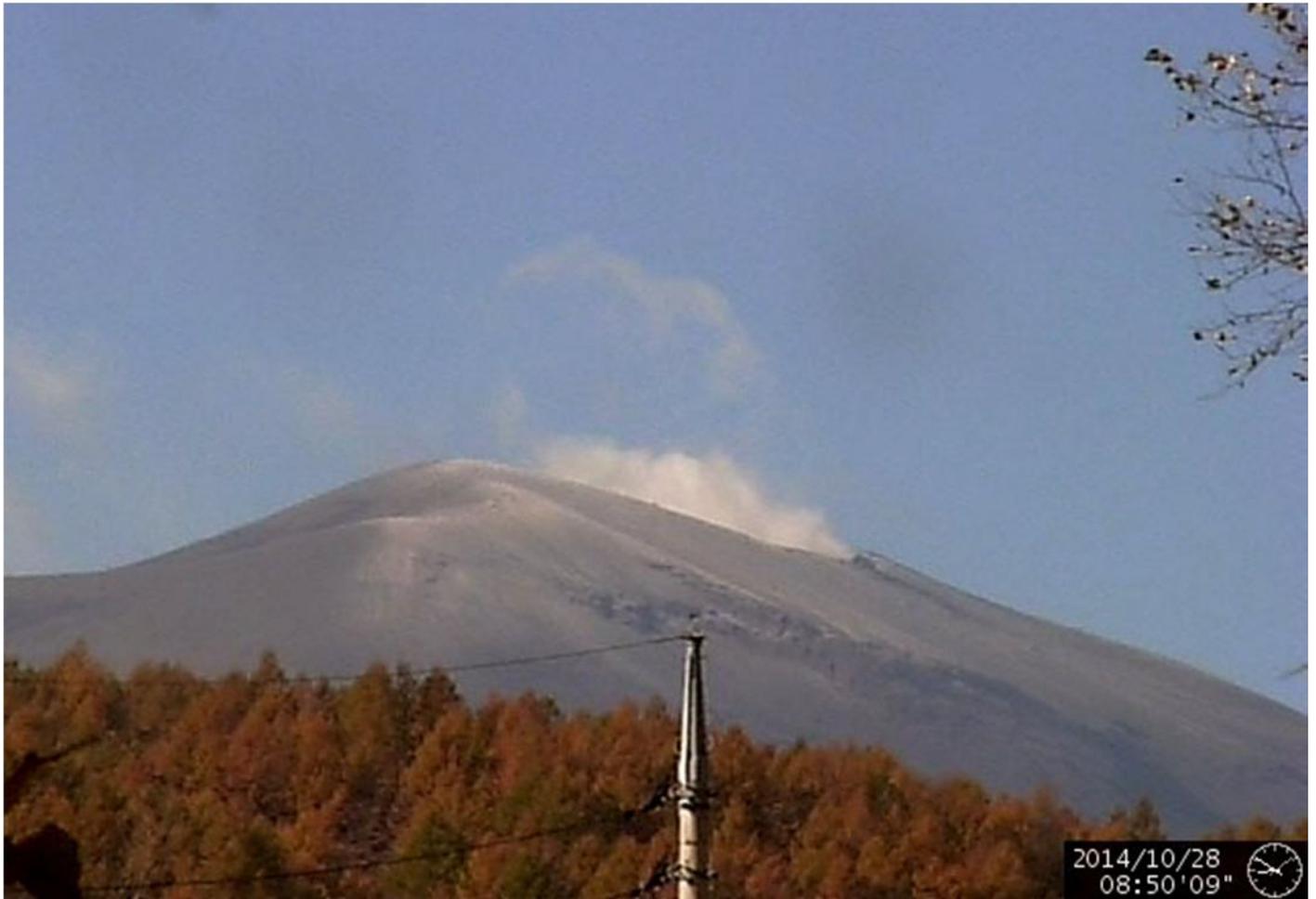


「浅間山の初冠雪」

10月下旬になって、北軽井沢は気温が氷点下まで下がりました。まだ雪は降っていませんが、すっかり暖房が必要な季節です。浅間山の山頂は、北軽井沢よりも1500メートルほど標高が高く、気温も10°C程度低いと思われます。毎年10月下旬から11月上旬に「初冠雪」が観測されます。今年も10月28日に初冠雪が見られました。昨年より数日遅いだけでした。



「浅間山の初冠雪」

北軽井沢のカメラを、東京から遠隔操作して撮影。その後2時間ほどで消えてしまいました。手前の森は、浅間牧場近くのカラマツです。カラマツもすっかり色づき、たくさんの針葉を、まるで黄金色の雪のように降らせています。山頂から出ているのは噴煙ではなく、白煙です。噴煙は火山灰などの「火山碎屑物」が必ず含まれ、噴火の時だけに見られます。通常は湯気と火山ガスだけで、常に白い色をしています。

「初冠雪」というのは、麓から見て山頂付近に最初に雪が積もったことが確認された時を言います。最初の雪では、ケーキに粉砂糖をまぶしたように、うっすらと白くなるだけです。普通はその日のうちに消えてしまいます。その後2回、3回と山頂に雪が降ると、それが「根雪」となって、やがて12月中旬ごろに、浅間は真っ白に雪化粧します。山麓には「浅間に3回雪が降ると、もう融けずに残る。」という言い伝えがあります。いよいよ浅間にも冬がやってきます。



「山頂付近の初冠雪」

まるで火山灰のように見えますが、これは雪がうっすらと積もっている様子です。山頂付近の縦の亀裂は、山頂に観測資材を運ぶ「ブルドーザー道」です。この写真も、望遠レンズを搭載したデジタル一眼レフカメラを、東京から遠隔操作をして撮影しました。



「千トン岩付近の様子」

千トン岩は昔の噴火で、火口から噴出して、火口壁に載った大きな岩です。落っこちそうに見えますが、不思議と安定しています。実際は 3000t 近くあると言われています。